

二重敬語「ます／ません／ました＋です」の使用傾向と要因
—BCCWJ・国会会議録検索システム・I-JAS を用いた分析—

今村 圭介・住吉 尚子・チェ スンジン・西沢 雅代・劉 巧云

1. はじめに

本稿では、「ありますです」「わかりませんです」など「ます」の様々な形に「です」が後続する二重敬語（以下「マス形＋デス」）がどの様に使用されるか、コーパスを用いてその使用傾向と要因を明らかにしようと試みるものである。「マス形＋デス」の存在とその使用理由についての概要は、これまでも言及されてきている。井上(1999:108)は「ますです」という表現に関して、『ます』だけでは敬意がたりないというのでできた言い方で、過剰敬語として敬語の実用書では非難される」と述べている。その上で、先の将来の言語変化として、述語末はデスで統一されると予想している。日本語記述文法研究会(2009)は、「ますです」は非常に丁寧な談話において用いられることがあると同時に、話し言葉で冗談めかした表現効果を狙った、誇張したへりくだり表現として、用いられることがあると指摘している。また、推量の「でしょう」が「ます」の後につく形は比較的自然に用いられるとしている。「マス形＋デス」は、『国会会議録』の第一回会議から見られ、少なくとも近年の言語変化ではない。

近年「ません」と「ないです」の出現傾向や言語変化の傾向を記述する研究が見られるが、「ます」「ません」「ました」と同様の意味機能を持つ変異形「ますです」「ませんです」「ましたです」についての論考は少ない。特にコーパスを使った調査は見られない。そこで本稿では複数のコーパスを使い、「マス形＋デス」の使用傾向とその言語内的・言語外的な要因を探る。

2. 研究背景

2.1. 先行研究

「マス形＋デス」に関する論考は、宇野(1977)、川瀬(2010)がある。宇野(1977)は数ヶ月間に渡り、テレビを含む自身の周りの発話および、書籍に表れた「マス形＋デス」を収集し、その用法について考察している。その上で以下のような指摘をしている。なお宇野は、収集した例の出自に偏りがある可能性から、一般化ができるかどうかかわからないと指摘しつつも、実態から大きく外れているものではないと内省している。

1. 話し言葉、または談話調の書き言葉に表れるものである。
2. 対話においての使用が多い。
3. 男女による性差は認められない。
4. 年齢による位相差も見られない。
5. 相手との関係が極めて親しい場合には用いられない。

6. 言い切りの形は、「ません+です」には見られるが、「ます+です」「ました+です」には少ない。
7. 「～ですね」の形が多く、終助詞、接続助詞が伴うものが多い。

一方川瀬（2010）は、「マス形+デス」を標準的な用法から外れる表現と捉え、「です」の「キャラ語尾」としての使用がされていると捉えている。「です」のコピュラとしての形態を変えずに、統語的特徴を規範からずらすことである種のキャラクタが表現されると述べている。「マス形+デス」を含む「です」の非規範的な使用が表すキャラクタは一定しないとした上で、「幼いキャラ」、「かわいいキャラ」、「変わったキャラ」、「頼りないところがあるキャラ」などを表すとしている。

また、「マス形+デス」に関連すると考えられる動詞否定形の変異「ないです」と「ません」の使用傾向は、野田(2004)、小林(2005)、板野(2012)、川口(2014)などで考察されている。川口は、「ません」から「ないです」にシフトする要因を表1のようにまとめている。「マス形+デス」は「です」が付加するという点で「ナイデス形」と出現傾向に、共通点が見られると考えられる。

表1. 「ません」から「ないです」にシフトする要因（川口 2014:119 より引用）

	マセン形	→	ナイデス形
スタイル	書き言葉	→	話し言葉
前接	動作性	→	状態性
後接	なし（言い切り）	→	あり（終助詞）
構文	引用節内	→	引用節外
モダリティ	実行形	→	叙述形
丁寧度	高い	→	低い

2.2. リサーチクエッション

以上の先行研究の指摘を踏まえ、本研究で設定したリサーチクエッションは以下の3点である。

- (a) 「マス形+デス」は、キャラ語尾もしくは冗談めかした表現として、また非常に丁寧な談話で用いられるのか。
- (b) 「マス形+デス」は前接する表現の種類によって使用傾向の異なりが見られるか。
- (c) 「マス形+デス」は、終助詞などの後接表現がある場合と言い切りの場合で使用傾向に違いが見られるか。

2.3. 分析資料

本稿では、「現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)」、「国会会議録検索システム」

「多言語母語の日本語学習者横断コーパス(I-JAS)」を使用し、「マス形＋デス」の使用傾向を探る。丁寧のモダリティ「です」「ます」は当然、発話の受け取り手が強く意識された状況で使用される。BCCWJ においては小説の会話文や対談を書き起こしたもの、Yahoo!知恵袋のような文章のやり取りが見られる状況など、話し言葉的な要素が強い書き言葉で使用されると考えられる。また、国会という改まった場面では「マス形＋デス」が多く使用される。そのため、国会会議録は BCCWJ にも収録されているが、「国会会議録検索システム」を使い、用例数を拡大して詳細な分析を行う。

加えて、I-JAS における日本語学習者の「マス形＋デス」の使用傾向も探っていく。I-JAS は日本語学習者のデータであるが、金澤(2008)が指摘するように、学習者の「誤用」は、将来の言語変化を予測する形で表れる可能性がある。そのために、日本語学習者の「マス形＋デス」の使用を記述し、考察を行う。

3. BCCWJ に見る母語話者の使用

3.1. 用例の検索と抽出結果

まずは、BCCWJ における「マス形＋デス」の用例を考察する。用例の抽出について述べた後に、全体的な傾向、前接の動詞別の傾向、後接する表現別の傾向の順に考察を行う。用例の検索は動詞ごとに形が変わることがないため、「文字列検索」を使い、「ますです」「ませんです」「ましたです」を検索した。関連する非標準的な表現として「ますでした」「ましたでした」が考えられるが、それぞれのヒット数は1件であるため、本稿の分析には加えない。また「マス形＋デショウ」は広く許容される形式であるため、本稿の分析に加えない¹。

表2で示すように、それぞれの該当数は、「ますです」112件、「ませんです」102件、「ましたです」115件である²。その内①②のような用例は除いた。三つの形の BCCWJ での出現回数は大きな差異は見られない。しかし、それぞれを「ます」「ません」「ました」との変異と捉え、出現率を見ると差異が現れる。表3で示すように、出現率は「ませんです」が高く、「ましたです」「ますです」の順になる。これは偶然の結果ではなく、4節で考察する国会会議録におけるデータの傾向と一致する。つまり「マス形＋デス」は「ませんです」「ましたです」「ますです」の順で使用されやすいと言えるだろう。その理由は後に考察するように、a)非文法的であるという意識が、活用していない形「ます」に「です」が続くことに対して、より強く働くこと、b)丁寧に話すべきという意識が、否定の形を使う時により強く働くこと、であると考えられる。

¹ 「マス形＋デス」と「マス形＋デショウ」の使用傾向には、興味深い類似点が見られる可能性があるが、紙幅の関係から扱うことができなかった。機会があれば稿を改めて論じたい。

² 音引きをする「ますで一す」などが出現する可能性が考えられたが、考えられる形式を全て検索したところヒット数は0件であった。

表 2. BCCWJ における「マス形+デス」の用例数

	検索ヒット数	除外数	分析例数
ますです	112	1	111
ませんです	102	4	98
ましたです	115	0	115

表 3. BCCWJ における「マス形+デス」の出現率³

検索語句	分析例数	検索語句	ヒット数	「マス形+デス」の出現率
ますです	111	ます	652,449	0.017%
ませんです	98	ません	142,790	0.068%
ましたです	115	ました	238,193	0.048%

- ① 除外例 1: 「ますです」「ませんです」「ましたです」の形式でないもの
- ・これからますますですね! (OYU5_04262・Yahoo!ブログ・2008)
 - ・すんませんですむか(PB_00583・出版・書籍・2003)
 - ・笑いが止まりませんでした。(OC14_10313・Yahoo!知恵袋・2005)
- ② 除外例 2: マス形で終了する文の引用にデスが付加していると思われるもの
- ・～もしれません。実際やったわけではないので、あくまでももしれませんです。(OC02_01123・Yahoo!知恵袋・2005)

3.2. 出自のレジスター別傾向

次に「ますです」「ませんです」「ましたです」の形式ごとに、出自のレジスターごとの用例数を調べ、出現傾向を考察する。BCCWJ は、現代日本語の書き言葉の全体像を把握するために、様々な媒体での書き言葉を収録している。まず、「ます+です」のレジスターごとの用例数を表 4 にて示す⁴。

表 4. BCCWJ における「ますです」のレジスター別出現傾向⁵

レジスター	年代	用例数	出現の割合
国会会議録	1997～2005	16	14.4%
書籍	1976～2005	27	24.3%
Yahoo! ブログ	2005	54	48.6%
Yahoo! 知恵袋	2005～2008	14	12.6%
合計		111	100%

³ 検索に際しては、「書字形出現形」に加え、「品詞」を「助動詞」を指定することにより、丁寧表現以外の形式を排除した。

⁴ 田野村 (2012) が指摘するように、BCCWJ は「出版」「図書館」「特定目的」のサブコーパスの下位分類を示す用語が一定していない。本稿では「レジスター」という語を使用する。

⁵ 表で示す「書籍」は BCCWJ のサブコーパス「出版」における書籍と、「図書館」における書籍を統合したものである。

- (1)郵政省の中でいろいろ審議をしたこの結果がございましてですね。(OM18_0001・国会会議録・1997)
- (2)そういうことをするのかしらと思ってねえ、それがちょっと、疑われますです」(LBe9_00215・笹倉明『東京難民事件』講談社・1990)
- (3)これでやっとローンが払えますです。(OY01_00528・Yahoo!ブログ・2008)
- (4)これって違法じゃないんでしょうか?へい。そうなりますです。(OC04_00203・Yahoo!知恵袋・2005)

「ますです」の用例は111件である。「国会会議録」16件、「書籍」が27件であり、「Yahoo!ブログ」は54件で全体の48.6%であった。各ジャンルの収録語数を考慮すると(「Yahoo!知恵袋」、「Yahoo!ブログ」が約1000万語、「国会会議録」が500万語、「書籍」が6000万語程度)「Yahoo!ブログ」における出現回数が一番多く、「国会会議録」における出現回数が次に多いことが指摘できる。

「Yahoo!ブログ」の例は「お願いしますです」のように読者への依頼を表すものや「思いますです」のように筆者の考えを述べたものが多い。読者への敬意を表すと同時に、先行研究で指摘されている「冗談めかした表現」「キャラ語尾」としての使用があるために、「Yahoo!ブログ」での使用が多いのであると考えられる。「Yahoo!知恵袋」では「おりますです」「ございましてです」のように読者への敬意を表す目的で使用されている。「国会会議録」の例としては、「ございましてですね」や「ありますですね」のように発話中、相手に対する敬意を表す目的で使用しているものが目立つ。「書籍」ではノンフィクションやインタビュー記事などの対話部分で「疑われますです」のように会話文を表す「」内で使われているものが27件中19件で70%である。リスト上は「」がないものでも、内容から判断し、対話であると思われるものが3件、セリフと思われるものが3件で、地の文がわずか2件である。つまり書き言葉としての許容度は低く、使用されにくい傾向にあると言える。

表 5. BCCWJ における「ませんです」のレジスター別出現傾向

レジスター	年代	用例数	出現の割合
国会会議録	1976～2003	18	18.4%
書籍	1976～2005	34	34.7%
Yahoo! ブログ	2005～2008	32	32.7%
Yahoo! 知恵袋	2005	14	14.3%
合計		98	100%

- (5)あなたがおっしゃるような条件が違うというふうには考えられませんですね
(OM11_00011・国会会議録・1976)
- (6)「私は部分的な捜査を担当したんでわかりませんです」(OBIX_00157・野間宏

『狭山裁判』岩波書店・1996)

(7) 「冬」は「除雪」をしないと暮らしてはいけませんです。(OY15_02828・Yahoo!ブログ・2008)

(8) アメリカに行けば治療の必要はありませんです。(OC04_00664・Yahoo!知恵袋・2005)

表5のように「ませんです」は、「国会会議録」が18件、「書籍」が34件、「Yahoo!ブログ」が32件、「Yahoo!知恵袋」が14件であった。「書籍」での出現比率が「ますです」に比べて高く、34%である。一方、Yahoo!での出現比率は47%で「ますです」より低い。つまり、出現するジャンルでの偏りが「ますです」より少ない。少ない用例数であるため、この傾向が偶然の結果か、それぞれの形式の用法の差異によるものかが判断ができない。

表6. BCCWJにおける「ましたです」のレジスター別出現傾向

データ名	年代	用例数	出現の割合
国会会議録	1977～2002	29	25.2%
書籍	1997～2005	24	20.9%
Yahoo! ブログ	2008	60	52.2%
Yahoo! 知恵袋	2005	2	1.7%
合計		115	100%

(9) 一昨日新幹線工事で事故がございましたね。(OM18_00001・国会会議録・1977)

(10) 参りましたすな。(LBI8_00006・小林カツ代『アバウト英語で世界丸かじり』集英社・1997)

(11) 完全に風邪をこじらせてしまいましたです。(OY13_05847・Yahoo!ブログ・2008)

(12) かなり正確な情報が紛れていましたです。(OC02_00635・Yahoo!知恵袋・2005)

表6のように「ましたです」の使用は「国会会議録」が29件、「書籍」が24件である。「Yahoo!ブログ」は60件で出現が約52.2%であるが、「Yahoo!知恵袋」での出現は「ますです」「ませんです」に比べて少ない。これはその日に起こったことや考えたことを書き留めるといったブログの性質が関わるのではないかと考えられる。また「ますです」「ませんです」に比べ、「国会会議録」における用例が若干多いが、後に考察する「国会会議録検索システム」による用例数と比べると、偶然の結果であると考えられる。

ここまでの分析をまとめると、「ますです」「ませんです」「ましたです」は使用にレジスターごとの偏りが少なく、発話の丁寧度を上げる用法が認められる。収録語の母

数を考えると書籍における使用は比較的少なく、出現は会話文やインタビューにおける使用がほとんどである。書き言葉としての許容度は低く、話し言葉において使用される形式であると言える。

3.3. 前接の表現形式による傾向

次に前接する表現形式に一定の傾向が見られるのかを考察する。BCCWJ における「ますです」「ませんです」「ましたです」に前接する形式の上位 10 例は、表 7 のとおりである。

表 7. 「マス形＋デス」が前接する形式の傾向

	「ますです」		「ませんです」		「ましたです」	
順位	前接語	回数	前接語	回数	前接語	回数
1	(〜)おり	18	あり	18	(〜) おり	11
2	あり	13	わかり	10	なり	8
3	ごさい	11	ごさい	7	し	6
4	し	9	すみ (い、ん)	6	あり	6
5	い	5	いけ	4	思い	6
6	なり	5	おり	4	いただき	6
7	思い	5	し	3	まいり	5
8	いたし	4	まいり	3	い	4
9	書き	2	でき	2	おっしやい	3
10	でき 他 1	2	かまい 他 2	2	しまい 他 2	3

(13)敬称も略させていただいておりますです。(OY15_08851・Yahoo!ブログ・2008)

(14)今年もあとわずかでごさいますですね。(OY14_06117・Yahoo!ブログ・2008)

(15)地下にごちゃごちゃカフェやら飲食店やがありますです。(OC13_03536・Yahoo!知恵袋・2005)

(16)言葉もありませんです。(OY03_08034・Yahoo!ブログ・2008)

(17)でも怜の性格意図が結局のところわかりませんです。(LBg9_00196・中島梓『小説道場』光風社・1992)

(18)たくさんの方々にご迷惑ご心配おかけしまして本当にすみませんです(OY14_04967・Yahoo!ブログ・2008)

(19)一日二十軒のうどんやを巡っておいりましたですからね。(OY03_02126・Yahoo!ブログ・2008)

(20)アップするのを忘れておいりましたです!(OY14_46100・Yahoo!ブログ・2008)

(21)一時間とたたぬうちに、またおでかけになりましたです。(LBfn_00006・ステイ

ーブンソン、R.L. (訳)各務三郎『ジギル博士とハイド氏』岩崎書店・1991)

上位10例をみると「ますです」では「～ております」が最も多く、次いで「ございます」、「あります」であった。「ませんです」では「ありません」「わかりません」「すみません」が最も多い。「ましたです」では「～ておりました」が8例、「なりました」が7例みられた。上位10例から「ますです」「ませんです」「ましたです」全てに状態性の動詞や敬語表現に接続する傾向が見られた。状態性の動詞が共起しやすい点は、先行研究で指摘されている「ないです」の変異傾向との類似点がある。「マス形+デス」と「ないです」の両方の使用傾向に「です」という語の性質が影響することが指摘できる。加えて、「すみません」のような定型表現、「わかりません」のような定型表現の性質を持つ表現では、「ます」の形式的・機能的な認識が弱まり、「です」が付加されやすくなると指摘できる。また、「ませんです」に限り、「わかる」「行ける」「できる」という可能表現の用例が多い。これは、個人の能力が及ばないことを伝えることが相手に心理的な負担を与え、より丁寧に伝えなければならないという意識が働くからではないかと考えられる。

3.4. 後接の表現形式による傾向

次に、後続する表現形式別の「マス形+デス」の出現傾向を考察する。表8,9,10で、それぞれ「ます+です」「ません+です」「ました+です」の文末表現別の使用傾向を示す。全体としての傾向を見ると、「Yahoo!ブログ」、「Yahoo!知恵袋」では言い切りの形が多く、「国会会議録」では終助詞「ね」などが後続する傾向にある。つまり、レジスターごとに使用の傾向が確立されていると言える。「国会会議録」において「ね」が多く出現するのは、会議の席で聞き手に同意を求める目的で「ね」を使用するが、改まった場で丁寧度を上げなければならないという意識が働くためと考えられる。相手に働きかける度合いが強い時に、より丁寧な形式を使う意識が働き、「マス形+デス」が使用されるのである。「Yahoo!ブログ」では後接表現にかわるものとして「!」「?」や顔文字が多用されている。

なお、表8,9,10の結果は、各レジスターにおける当該表現形式の出現傾向の偏りが影響する可能性が考えられる。そこで、当該表現形式の出現傾向の偏りを調べた。例えば、表8に関連して、レジスターごとに終助詞「ね」の出現回数、後接表現を伴わない言い切りの形「ます。」の出現回数を検索した。その結果、終助詞「ね」は「書籍」70,458回、「国会会議録」7,114回、「Yahoo!知恵袋」40,247回、「Yahoo!ブログ」39,426回、「です。」は「書籍」150,738回、「国会会議録」59,255回、「Yahoo!知恵袋」102,096回、「Yahoo!ブログ」31,725回であった。つまり、国会において「ますです」に「ね」が後続する形が多いのは、終助詞「ね」自体の使用が国会で多いからではないと言える。同様に、「Yahoo!ブログ」において「ますです」の言い切りの形が多いのは、言い切りの形がブログで多用されるからではないのである。

表 8. 後接する文末表現別の「ます＋です」の出現傾向

	後接表現	形式分類	出現回数				
			国会	書籍	ブログ	知恵袋	合計
ます です	ね	終助詞	14	3	2		19
	か	終助詞				3	3
	よ(よ・よー)	終助詞		5	3		8
	よね	終助詞	2		1		3
	ぞ	終助詞		1			1
	な	終助詞		2			2
	が	接続助詞	1			1	2
	から	接続助詞		2	1		3
	と	接続助詞			1		1
	う	語尾のび			2		2
	ー	語尾のび			3		3
	じゃが	方言形式			1		1
	たい	方言形式				1	1
	× (なし)	—		13	40	9	62
合計			17	26	54	14	111

表 9. 後接する文末表現別の「ません＋です」の出現傾向

	後接表現	形式分類	出現回数				
			国会	書籍	ブログ	知恵袋	合計
ま せ ん で す	ね(ね・ねえ・ネ)	終助詞	8	9	2	1	20
	か	終助詞	4	1	1		6
	よ (よ・よー・ヨ)	終助詞		4	1		5
	よね	終助詞			1	1	2
	な	終助詞		1			1
	の	終助詞		1			1
	が	接続助詞	1	5			6
	けれども	接続助詞	3	1			4
	から	接続助詞	1				1
	ので	接続助詞			1	1	2
	う	語尾伸び			1		1
	ます	?			1		1
	やろか	方言		1			1
	× (なし)		1	11	24	11	48
合計			18	34	32	14	98

表 10. 後接する文末表現別の「ました+です」の出現傾向

	後接表現	形式分類	出現回数				
			国会	書籍	ブログ	知恵袋	合計
ました です	ね (ね・ねえ・ねえ)	終助詞	18	5	5		28
	か	終助詞	3	2		1	6
	よ (よ・よッ)	終助詞		5	1		6
	よね	終助詞	2	1	1		4
	わ	終助詞		1			1
	な	終助詞		1			1
	が	接続助詞	5		1		6
	けれども/けれどもねえ	接続助詞	1		1		2
	からね	接続助詞+ 終助詞			1		1
	ねん	方言形式			1		1
	う/お	語尾伸び			2		2
	× (なし)			9	47	1	57
	合計		29	24	60	2	115

表 11. 「Yahoo!ブログ」、「Yahoo!知恵袋」における記号と顔文字の出現状況

	ますです		ませんです		ましたです	
	ブログ	知恵袋	ブログ	知恵袋	ブログ	知恵袋
記号*	13	6	9	1	25	1
顔文字	7		6		5	
記号 + 顔文字	2					
合計	22	6	15	1	30	1
全体数	54	14	32	16	60	2
出現比率	40.7%	42.9%	46.9%	6.3%	50%	50%
*「?/!/・・・/~/♪/☆/★/(爆)/(笑)」を記号として集計した。						

表 11 に見られるように、「Yahoo!ブログ」と「Yahoo!知恵袋」は、後接詞が付かない傾向が 70%前後であったが、その代わりに顔文字や記号の使用が多い。日本語の正式な表記としては使用しない「!」「?」「・・・」「～」「♪」「★」「☆」「(爆)」「(笑)」や顔文字が特にブログで 40.7%～50%と出現率が高い。なお、これらの記号や顔文字は、終助詞、長音記号「—」、「う」に続くものも含んでいる。高い確率でそれらを含むのはやはり先行研究が指摘するキャラ語尾、冗談めかした表現として使用されていることを示すと言える。

4. 国会会議録検索システムに見る使用傾向

BCCWJでの検索結果をさらに詳しく調べるために、「国会会議録検索システム」において、当該の表現を検索した。「マス形＋デス」を通常のマス形との変異と捉え、表12,13,14で両形式の検索ヒット数と、「マス形＋デス」の出現率を示す。なお、「ます、ですよ」など一つの表現ではなく、「ます」の後にポーズを置いて、「です」を含む表現が現れる場合があったが、数が少なかったため除外する必要があると考え、そのまま数に含めてある⁶。後接表現がない「です」や「ます」で終了する文の場合は、句点を検索に含めることで、後接表現が存在する場合や、「励ます」のような動詞の一部である「ます」のようなノイズを排除している⁷。なお、「～ですよ」の検索ヒット数は「～ですよ」の検索ヒット数を引いたものである。

表 12. 「国会会議録検索システム」における後接の形式別の
「ますです」のヒット数（2018年7月13日検索）

検索語句	ヒット数	検索語句	ヒット数	「ますです」の出現率
ますです。	78	ます。	99944	0.08%
ますですね	2016	ますね	44687	4.3%
ますですか	1053	ますか	73079	1.39%
ますですよ	104	ますよ	57207	0.18%
ますですよ	159	ますよ	11427	1.37%
ますですが	399	ますが	94012	0.42%
ますですけど	7	ますけど	4339	0.16%
ますですので	11	ますので	8296	0.13%
ますですけども	113	ますけれども	68756	0.16%
合計	3938	合計	461837	0.84%

⁶ 厳密にはカウントすべきではあるが、検索数が膨大であることと、多少の誤差が分析に影響するものでないため、カウントはしなかった。

⁷ なお、「励ます」のような丁寧形式が付かない形が検索結果に含まれる可能性は完全に否定できないが、母数を考えると分析に影響しないため無視した。

表 13. 「国会会議録検索システムにおける後接の形式別の
「ませんです」のヒット数（2018 年 7 月 13 日検索）

検索語句	ヒット 数	検索語句	ヒット 数	「ますです」 の出現率
ますです。	78	ます。	99944	0.08%
ますですね	2016	ますね	44687	4.3%
ますですか	1053	ますか	73079	1.39%
ますですよ	104	ますよ	57207	0.18%
ますですよ	159	ますよね	11427	1.37%
ますですが	399	ますが	94012	0.42%
ますですけど	7	ますけど	4339	0.16%
ますですので	11	ますので	8296	0.13%
ますですけども	113	ますけれども	68756	0.16%
合計	3938	合計	461837	0.84%

表 14. 「国会会議録検索システムにおける後接の形式別の
「ましたです」のヒット数（2018 年 7 月 13 日検索）

検索語句	ヒット 数	検索語句	ヒット 数	「ましたです」 の出現率
ましたです。	122	ました。	94731	0.12%
ましたですね	3280	ましたね	19192	14.6%
ましたですか	1538	ましたか	50229	2.97%
ましたですよ	97	ましたよ	64913	0.15%
ましたですよ	255	ましたよね	3886	6.15%
ましたですが	1210	ましたが	77340	1.54%
ましたですけど	33	ましたけど	2776	1.17%
ましたですので	1	ましたので	70108	0.00%
ましたですけども	741	ましたけれども	56708	1.29%
合計	7277	合計	439883	1.63%

表 12、13、14 からわかるように「ますです」と「ましたです」が言い切りの形で使用される例は少ない（それぞれ、78 例と、122 例）。その理由として、まず「です」が文末に単独して現れる形が、形態的に安定していないということが考えられる。日本語記述文法研究会（2009）は「ないです／なかったです」系列の表現は形容詞の丁寧形一般がそうである様に、文末言い切りで用いる場合にはやや舌足らずな語感を伴う、と述べている。同様に「マス形+デス」でも接続助詞や終助詞が付加されない形が避けられやすい傾向にあるのではないかと指摘できる。対して、「ませんです」と言い切りがされる例は、2699 例と「ますです」「ましたです」と比べて圧倒的に多い。「ませんです」の言い切りの形が頻繁に使われているのは、「です」によってさらに丁寧度を

あげるとともに、「ません」で言い切ることによる明示的な否定を避けているのだと考えられる。全体として「ませんです」の使用数が多く使用率が高いのは、明示的な否定を避けるという意識に加え、否定を伝える時にはより形式を丁寧にしなければならないという意識が働くからであると考えられる。

また全体を見ると、「マス形＋デス」は、終助詞「ね」、疑問詞「か」が続く形が多く、次に接続助詞「が」「けれども」、終助詞「よね」がつく形が多く表れる。その理由は現時点では定かではない。また、非過去肯定形「ますです」に接続助詞「が」「けれども」がつく形の用例が比較的に少ない。「ます」と「です」という、ほぼ同一の対者敬語としての機能を持つ語が重なることに、文法性判断が働き、避けられるのに対して、「ません」「ました」と否定・過去の形式がついた形は形状的に異なるため、許容度が上がるということが考えられる。動詞の過去否定形が「行きませんでした」と、丁寧な否定を表す「ません」に丁寧な過去を表す「でした」が来る形である。また、「ますでしょう」という形も比較的許容される形である。「ます」と「です」が活用して他の文法形式が付属する場合は、「です」「ます」の両者が重なることに抵抗が少いと言える。

まとめると、「ますです」「ましたです」の形は終助詞や接続助詞、特に終助詞「ね」「か」が続く形が多く、「ませんです」のみ言い切りが多く使用される。この結果は、宇野（1977）の観察とほぼ一致する。加えて、「マス形＋デス」を通常のマス形との出現率を見ると、「ませんです」での出現率が高いことが観察された。

5. I-JAS に見る日本語学習者の使用傾向

次にコーパス I-JAS を用いて、日本語学習者の「ます形＋です」の産出傾向に関して考察をしていく⁸。学習者の言語表現は母語話者の規範をそのまま反映したものであることもあれば、学習者が独自に中間言語として再構築した結果のものであることも考えられる。「マス形＋デス」は非標準形であり、教えられることがないため、学習者が使う「マス形＋デス」は、後者の方がほとんどであると推測できる。表 15 は 2018 年 7 月時点で検索した、I-JAS の 660 人のデータからの用例数である。なお、I-JAS のデータを分析するうえで次の①②のような例は分析対象から省いた。

表 15. I-JAS における「マス形＋デス」の用例数および使用人数

	使用人数	用例数	J-CAT レベル
マス＋デス	22	27	58～254
マセン＋デス	169	323	55～307
マシタ＋デス	13	36	81～249

⁸ なお、I-JAS には日本語母語話者のデータも含まれている。日本語母語話者の「マス形＋デス」の使用は「ますです」1 例、「ましたです」1 例にとどまった。インタビュー会話のような場面ではやはり「マス形＋デス」の使用は一般的でないことを示している。

①除外例1：データの中で学習者が自己修正したもの。

例) この仕事は一、できま、できませんです、できません

②除外例2：当該の非標準形が読点などで区切られているもの。

例) 田舎はできません、ですね。(下線は筆者)

「できません」は計 323 例が表れたが、「ますです」「ましたです」はそれぞれ 27 例と 36 例であった⁹。学習者のレベルは初級から上級まで幅広く、レベルによる偏りは少なかった。I-JAS は学習者の作文のデータも含まれるが、「できません」の使用の 323 例中 317 例が、話し言葉で表れたものである。「できません」で用例数が極端に多いのは、国会会議録において「できません」の用例数、使用率が高いことと一致する。学習者が独自に中間言語の文法を作っていると仮定すると、何らかの要因で「できません」が受容されやすい形であり、母語話者の間でも今後使用が広がる形である可能性が指摘できる。

6. まとめ

本研究では、「マス形+デス」の機能、使用傾向とその要因に関して、コーパス調査からの考察を試みた。先行研究では、「マス形+デス」は、冗談めかした表現やキャラ語尾、非常に丁寧な談話で用いられるということが指摘されてきた。BCCWJ の用例からその傾向が窺われ、その指摘が正しいことが確認された。また、「マス形+デス」は前接の動詞に一定の傾向が見られるかを確認した。その結果、敬語表現や状態性の動詞表現と共起する傾向にあった。また、後接する表現を見るとレジスターごとに特徴があることが明らかになった。さらに「国会会議録検索システム」を使用して、その使用例数と、「マス形+デス」の形を単純な「マス形」との出現率を調べ、出現傾向を考察した。国会では「マス形+デス」の用例が非常に多く、明確な使用傾向が観察された。また、I-JAS において日本語学習者の用法を調べた結果、「できません」の用例が圧倒的に多いことがわかった。話し言葉として「マス形+デス」に接することが少ないにも関わらず、中間言語として用法を使用している事実から、「できません」が母語話者の間でも今後広く許容される表現になる可能性を指摘した。以上のように、先行研究の指摘と本稿で明らかになった「マス形+デス」の用法と使用傾向をまとめると以下ようになる。

⁹ 補助的に KY コーパスにおいても同表現を検索した。結果、「ますです」1 例、「ましたです」3 例、「できません」25 例と同様の傾向が見られた。

1. 書き言葉としての許容度は低く、主に話し言葉として使用される。
2. 前接する表現は尊敬語や謙譲語、「ございます」の形と共起する傾向にある。
3. 前接する動詞は「ある」「わかる」「～ている」など状態性を表すものであることが多い。
4. Yahoo!ブログやYahoo!知恵袋では、終助詞などを伴わない言い切りの形が多い。また、顔文字や記号、語尾伸びを伴うことが多く、冗談めかした表現やキャラ語尾として使われることが多い。
5. 国会では「マス形＋デス」の使用が全体的に多く、「ませんです」「ましたです」「ますです」の順に多く使用される。
6. 国会での使用は「マス形＋デス」に終助詞、接続助詞が付加する例が多く、特に「ね」「か」が後接する形が多い。
7. 日本語学習者には「ませんです」の形が圧倒的に多く現れる。

本研究の調査は、限られたコーパス調査の結果であるため、「ます＋です」の使用傾向の全体像が明らかになったわけではない。利用コーパスを拡大するなどして、さらなる分析・考察が求められる。今後の課題としたい。

参考文献

- 浅川哲也 (2017) 「ら抜き言葉と〈れれる言葉〉と可能動詞にみられる自発・受身・尊敬の用法について」『言語の研究』2: 39-54 首都大学東京言語研究会.
- 井上史雄 (1995) 「丁寧表現の現在—デス・マスの行方」『国文学 解釈と教材の研究』40(14): 54-61 學燈社.
- 井上史雄 (1999) 『敬語はこわくない—最新用例と基礎知識』講談社.
- 宇野義方 (1977) 「「ますです」について」『松村明教授還暦記念 国語学と国語史』pp.817-831 明治書院.
- 岡田祥平 (2018) 「日本語コーパスとしての「国会会議録検索システム検索用 API—計量的研究の精緻化・深化の可能性—」『新潟大学教育学部研究紀要』11(1): 31-51 新潟大学教育学部.
- 金澤裕之 (2008) 『留学生の日本語は未来の日本語 —日本語の変化のダイナミズム』ひつじ書房.
- 川口良 (2014) 『丁寧体否定形のバリエーションに関する研究』くろしお出版.
- 川瀬卓 (2010) 「キャラ語尾「です」の特徴と位置付け」『文献探究』48: 138-125 文献探究の会.
- 小林ミナ (2015) 「日常会話にあらわれた「～ません」と「～ないです」」『日本語教育』125: 9-17 日本語教育学会.

- 田野村忠温 (2012) 「BCCWJ に収められた新種の言語資料の特性について：データ重複の諸相とコーパス使用上の注意点」『待兼山論叢』 46: 59-83 大阪大学文学部.
- 野田春美 (2004) 「否定ていねい形『ません』と『ないです』の使用にかかわる要因—用例調査と若年層アンケートに基づいて—」『計量国語学』 24(5): 228-244 計量国語学会.
- 板野永理 (2012) 「コーパスを使った述語否定形「ません」と「ないです」の使用実態調査」『留学生教育』 17: 133-140 留学生教育学会.
- 丸山岳彦・柏野和佳子・田中牧郎 (2015) 「第3章 サンプルング」『現代日本語書き言葉均衡コーパス』 利用の手引 第1.1版』 国立国語研究所.
- 日本語記述文法研究会編 (2009) 『現代日本語文法 7 談話・待遇表現』 くろしお出版.

(いまむら けいすけ 東京医科歯科大学 助教)
(すみよし なおこ 首都大学東京 博士前期課程)
(にしざわ まさよ 首都大学東京 博士前期課程)
(ちえ すんじん 首都大学東京 博士前期課程修了)
(りゅう こううん 首都大学東京 博士前期課程)